



長野県 No. 1 のもも・ネクタリン産地を守ろう！

◆生育状況と当面する重点作業について

1. 春先の開花より、生育は早まっている。こまめに観察をし、作業の遅れの無いようにする。
1. 各品種の除袋を適期(曇天降雨の場合は目安より早めに)に行う。
特に本年は、核割れが多く、正常果と地色の抜けにバラツキがあるため、注意する。
2. 収穫品種は、着色にとらわれず、熟度優先の収穫をする。
(樹勢の弱い樹・核割れ果・変形果・枝の先端等は極端に収穫が早まるので注意する。)
曇天降雨が続く場合は着色が遅れ、熟期が先行しやすいので注意する。
3. 収穫前防除と被害果除去により腐敗病・ミカンキイロアザミウマ防除対策を徹底する。
4. 過繁茂の樹体・新梢管理を適切に行う。
5. 曇天降雨により糖度が低く着色が薄いので収穫前管理を徹底する。
配布されている「葉面散布肥料・特殊資材の使い方」を参考に葉面散布肥料を有効に活用する。
6. せん孔細菌病「夏型枝病斑」対策を徹底する。

◆収穫中品種の腐敗病防止対策について(もも・ネクタリン共通)

被害果が樹上にあると降雨で被害が拡大するので、まずは圃場内の伝染源の除去を目的に、被害果を土中へ埋めるか圃場外へ持ち出す。

◆白鳳・あかつき・川中島白鳳等収穫について

手のひらによる弾力感や縫合線の張りぐあい、ももの香りなどを参考にして、糖度がのり熟期のきたものから収穫する。白鳳系の成熟は、千曲白鳳 ⇒ あかつき ⇒ 川中島白鳳 ⇒ なつこの順です。
川中島白鳳・なつこは、着色が良い品種のため若取りに特に注意したい。
着色より、熟度に注意して収穫する！なお、一般的には、成熟期以前に、曇雨天が続くと果肉が先熟し、成熟日数が短くなり、高温乾燥が続くと成熟日数が長くなる。

◆除袋目安と管理について

1. 生育状況に十分考慮しながら、(高温干ばつで生育は遅れ、曇天多雨で生育は進む)別記の日程を目安に地色の抜け具合を観察し適期に除袋作業を進める。
2. 除袋時の注意
①除袋が早すぎると、無袋のようになり、着色が遅れ、遅すぎると着色せず、軟化が早くなるので、注意する。一般的な桃は、下記の図1を参考にし白っぽく淡い緑色になる頃が目安です。果実全体の地色が抜けた状態ではやや遅い。

③大玉から除袋を開始し、小玉や下枝・樹冠内部のものは上枝の除袋4～5日後に数回に分けて行う。最低でも上枝と下枝では生育差があるので2回程度に分けて除袋する。

④もも二重袋を使用したものは、3日程度早めに外袋のみ除袋する。

⑤除袋時に、曇雨天が続きそうな場合は、除袋時期の目安より、2日程度早めに始める。

⑥老木や樹勢の弱い樹は、数日早く除袋する。樹勢の強い樹は、除袋を遅らせる。

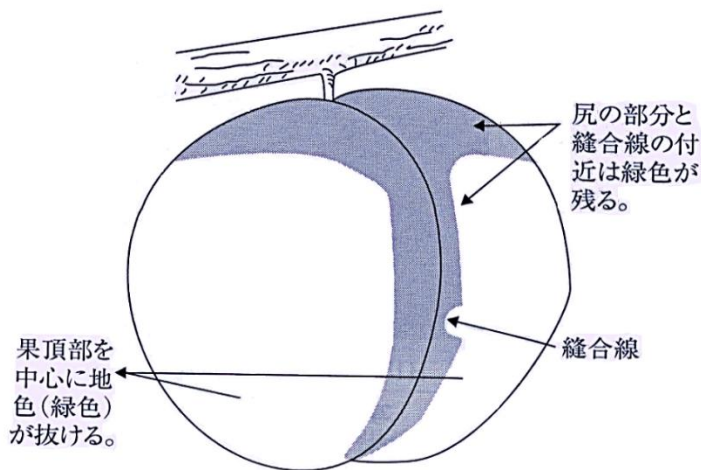


図1 果実の除袋目安

3. 着色管理

①葉摘みは、着色ムラをなくすため果実に密着している葉を摘む。1果当たり5枚程度限度とする。

摘み過ぎないように注意する。摘み過ぎは、着色・糖度に悪影響が出やすい。また肌荒れ・日焼け・軟化等、品質低下になる場合がある。※もも二重袋を使用した場合は、葉摘みはしない。

②反射シートは、有袋品種で、除袋直後から使用する。無袋品種で収穫予定日の10～14日前位から使用する。概ね着色したら軟化防止のためシートを外す。

③支柱立て、誘引を行い樹内部に日の光が入るようにする。

④着色先行となり、早採りを助長するので、熟度をよくみて判断し収穫する。

4. 除袋時期の目安 (あくまで目安です。今後の気象条件・自園の状況に合わせる)

品 種	時 期	目安の指標
川中島白鳳	7月中旬頃	<u>収穫4～7日前頃</u>
なつっこ	7月中下旬頃	<u>収穫7日前頃</u>

※目安の指標:着色が容易な品種ほど除袋は遅めに。着色が困難な品種ほど早めとしてください。

◆もも・ネクタリン収穫前薬剤散布について

[1回目]

1. 散布時期:有袋除袋後又は無袋着色始め(収穫7～10日前頃) 《実際散布日記入 月 日》

2. 調 合 量:水1000 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
ア プ ロ ー チ B I	1 0 0 mℓ	機能性展着剤	—
スクレアフロアブル	3 3 mℓ	灰星病・ホモプシス腐敗病	前日まで
アーデントフロアブル	5 0 mℓ	モモハモグリガ・ミカンキロアザミウマ・シクイムシ類・ハマキムシ類	前日まで

[2回目]

1. 散布時期:収穫開始2日前防除 《実際散布日記入 月 日》

★降雨が多い場合は、非常に重要な防除。

2. 調 合 量:水1000 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
ア プ ロ ー チ B I	1 0 0 mℓ	機能性展着剤	—
(デ ィ ア ナ W D G)	2 0 g	ミカンキロアザミウマ・シクイムシ類・ハマキムシ類	前日まで
オンリーワンフロアブル	5 0 mℓ	灰星病・ホモプシス腐敗病	前日まで

3. 1・2回目共通事項

1) 散 布 量:10a当り ⇒ 5000 以上

2)留意事項

- ①「収穫前日」となっている農薬の使用時期は、収穫する24時間前までに散布が終わる事を意味する。
- ②果柄部へも丁寧に薬剤散布を行う。
- ③除袋直後(ほとんど果面に日照を受けない状態)は、薬害(褐色の流れサビ斑・縞状の着色不良)が出やすいので少なくとも1~2日程度は日照をあてて散布する。
- ④腐敗果を発見したら被害を拡大させないために、園外に持ち出すか除去し土中に埋める。
- ⑤ミカンキイロアザミウマ、シンクイムシ類、ハマキムシ類の発生が心配される園は、『収穫開始2日前防除』にディアナWDG5,000倍(水1000当り20g・収穫前日まで)を加用散布する。
- ⑥スクレアフロアブルも代えて、ミギワ20フロアブル4,000倍(水1000当り25ml・収穫前日まで)を使用してもよい。
- ⑦オンリーワンフロアブルに代えて、オーシャインフロアブル2,000倍(水1000当り50ml・収穫前日まで)を使用してもよい。

◆過繁茂の樹体・新梢管理について

1. まずは支柱立て・枝吊り・誘引で空間を作る。
2. 果実が2~3個成っていても、邪魔な立ち枝は切除する。
3. 大きな副梢がある強い新梢を切る。(徒長枝は早めに切っておく)

◆白鳳系並びにネクタリン収穫・出荷講習会開催について

下記の日程により講習会を開催しますので都合のよい会場で受講下さい。

※出荷講習会からが収穫始めではありません。適熟になったものは、講習会前から荷受けします。
また、講習会後であっても、未熟なものは収穫せず、適熟になってから収穫を開始して下さい。

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
7月18日	木	午前11:00	東部流通センター(荷受け場)	外谷
			西部流通センター	徳武・寺澤
			松代総合センター	伊藤
			斗女神社(御厨)	松橋
		午後 2:00	東部流通センター(荷受け場)	外谷
			塩崎共選所	徳武・寺澤
7月19日	金	午前 9:00	真島フルーツセンター	根津
		午前10:00	若穂営農資材センター(川田)	松沢
		午前11:00	今井神社(中津)	松橋
			青木島支所	根津
			若穂果実流通センター	松沢
		午後 2:00	JA川中島支所	松橋

《栽培に関する営農技術員への問合せ》

徳武（篠ノ井西部）：080-1202-0260／外谷（篠ノ井東部・情報担当）：080-8048-6602

※篠ノ井西部は、当面、寺澤・松坂・佐藤・外谷も対応致します。

佐藤（信更）：090-7179-9866／伊藤（松代）：080-2239-6816

松橋（川中島）：090-4816-6297／根津（更北）080-1203-8576

松澤（若穂）080-1191-5166／寺澤（全域・情報編集）：080-1188-5229

吉澤（全域・情報監修）：090-2543-0365

栽培に関する電話対応は、担当地区関係なく対応できます。園地指導や地区組織関係のお問い合わせは、地区担当までお願い致します。

○果樹のアドバイザー（流通センター長兼務）松坂（篠ノ井西部）080-1188-4131

《栽培・販売に関する問合せ》各流通センター・共選所／営農販売部（本所）：292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部農業資材課：299-3311